

JBO4中間提言素案に係る意見照会結果

参考資料2

No.	回答者	章	節	基本戦略	状態目標	ご意見内容	対応内容
1	角谷委員	序章	第2節	－	－	「本提言はあくまで総合評価を行うものであり、様々な要因による影響を受けている可能性がある個々の指標のデータの傾向について評価するものではない。」 コメント:主旨はわかりますが、個別指標から総合評価への判断の基準を今回できるだけ客観的になるように整理したとことと整合するような表現にした方がよいと思います。図4や付属書を引用する形にする？	ご指摘を踏まえ、序章第2節に以下のとおり追記する。 「総合評価に当たっては、公表情報を基本とした様々な情報源から収集した指標を、状態目標の要素との適合性等の適切性を踏まえて分類及び選定の上用い、指標の量・質やトレンドの一致性等に基づき評価の信頼性の判断を行うなど、評価に客観性をもたせるよう努めた(第2章第1節参照)。なお、個々の指標データは、総合評価に際して傾向を俯瞰的に把握する目的のみ用いた。」
2	角谷委員	序章	第3節	－	－	2020年頃を基準年(ベースライン)とした短期トレンド評価を行った。 ↓ 2020年を基準年(ベースライン)とした短期トレンド評価を行った(注:データの利用可能性に応じて～年程度の前後はある)。 コメント:ベースラインを「頃」とするのは違和感があるので注を付記するような形が良いのでは？	ご指摘を踏まえ、以下のように記載を変更する。 「2020年を基準年(ベースライン。ただし、データの利用可能性に応じて1～3年程度前後する。)」とした短期トレンドについて総合評価を行った。」
3	角谷委員	第1章	キーメッセージ①	－	－	、直接的に生物多様性を保全しつつ社会経済への生物多様性の主流化も促すような直接要因と間接要因の相互のつながりを意識した統合的な取組を更に推進する コメント:メッセージとしてはもう一段階の具体性が欲しい。具体的にはどんな施策を想定した提言でしょうか？	ご指摘を踏まえ、より俯瞰的なキーメッセージになるようキーメッセージ1の内容自体を見直した。
4	角谷委員	第1章	図 3	基本戦略3 ネイチャーポジティブ経済の実現	状態目標3-3 持続可能な農林水産業が拡大している	コメント:基本戦略3状態目標3の評価はこれで大丈夫？(順調に確度高く進展しているエビデンスはありましたっけ？)	農業は有機JASほ場面積・有機農産物の格付け数量の増加と化学農薬使用量の減少、林業は木材自給率の向上と認証面積の増加を根拠として、信頼度は高く、順調に進展していると評価している。水産業は指標の傾向が分かれたため信頼度は低いが、総合的に見て現在の評価としている。
5	角谷委員	第1章	キーメッセージ③	基本戦略2 自然を活用した社会課題の解決	－	「持続的に享受していくことが求められる」 コメント:言い回しに違和感があります。必要なアクションは、「持続的な享受」ではなく、それを可能にするための取り組みでは？	ご指摘を踏まえ、以下のように記載を変更する。(キーメッセージ詳細の文章も同様) 「生態系サービスの持続的な享受を実現することが求められる。」
6	角谷委員	第1章	キーメッセージ⑤	基本戦略5 生物多様性に係る取組を支える基盤整備と国際連携の推進	－	コメント:キーメッセージ5では、必要な指標のデータギャップが明らかになった下で、生物多様性の観測の強化の必要性に関しても言及が必要だと思います。	ご指摘を踏まえ、以下のとおり文章を修正する。 「本中間提言では、データや評価手法の不足により評価できなかった項目も少なくなかった。観測技術・体制の強化を伴いつつ生物多様性に係る観測が引き続き継続されるとともに、JBOを含む様々な評価に対応できるよう、評価手法の高度化や、情報基盤の一層の充実が進められることが望まれる。」
7	角谷委員	全体	－	－	－	細かいことですが、脚注の形式にページ間で揺らぎがあるので統一が必要	ご指摘を踏まえて統一する。
8	角谷委員	第2章	第1節表2	－	－	表2の凡例「不明」はネガティブなので、「指標未整備」などの表現にしては	国別報告書の様式案も踏まえて設定している凡例のため、「不明」のままとして、注釈を付けて「指標が未整備、または指標から2020年以降の傾向が判断できなかった場合」と追記する。
9	角谷委員	第2章	第2節	基本戦略1 生態系の健全性の回復	状態目標1-1 全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	森林には、亜寒帯常緑針葉樹林、冷温帯落葉広葉樹林、暖温帯落葉広葉樹林、暖温帯照葉樹林等の森林と、そこに生息・生育するその他の動植物等からなる生態系が含まれる。 コメント:これは大区分森林のなかの小区分自然林についての説明という理解でよいですか。大区分の説明とするなら、草原などへの言及も必要	ご指摘のとおり、自然林についての説明であり、JBO3で記載していた説明書きを用いている。自然草原を含めて他の小区分についても、「地域生物多様性増進活動の手引き」(効果が期待できる活動手法 Ver.1.0)から引用して説明を追記する。
10	角谷委員	第2章	第2節	基本戦略1 生態系の健全性の回復	状態目標1-1 全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	国家統合指標 → 統合的な国家指標	ご指摘を踏まえ、以下のとおり文言を統一する。 「統合的な指標」
11	角谷委員	第2章	第2節	基本戦略2 自然を活用した社会課題の解決	状態目標2-1 国民や地域がそれぞれの地域自然資源や文化を活用して活力を発揮できるよう生態系サービスが現状以上に向上している	、各生態系サービスについて定義に基づいた区分を設け増減等の傾向の把握を行っているが、社会経済等の間接要因に強く影響を受けるデータもあることから、それら傾向の善し悪しを論ずる性質のものではない。 ↓ このエクスキューズがどこにかかっているもののがよくわかりません。読み方によっては、総合評価の方向性自体にかかっていると誤解されるように思います。目標に向けて後退しているという評価にも関わらず、それが悪いことではないとしていると読めるのは問題では？	ご指摘を踏まえ、以下のとおり修正する。 「～、各生態系サービスについて本定義に基づいた区分を設け、増減等の傾向の把握を行った。なお、生態系サービスに関する個々の指標データは、人口減少等の社会経済状況や気候変動等に強く影響を受けることに留意すべきである。」
12	角谷委員	第2章	第3節	－	－	まず冒頭に、JBO3までのアプローチと画して、指標(データ)にもとづき可能な限り透明性の高い評価プロセスの導入に努めた旨をポジティブな自己評価として述べると良いと思います。その結果、ギャップの特定が可能になったという流れでつなげる	ご指摘を踏まえ、第2章第3節の「本中間提言時点での評価における課題」の冒頭に以下を追記する。 「本中間提言では、JBO3までの評価手法とは異なり、各指標の適切性及び評価の信頼性の判断基準を設定した上で、これらに基づく客観的な評価プロセスを通して総合評価を行った。国家戦略に掲げられた各状態目標の達成に向けた状況について、現時点で入手可能なデータに基づいて評価を実施した結果、目標やその要素に適合する指標がない、あるいは指標の傾向判断が難しいものなど、必要とする指標データと実際に利用できるデータの乖離(データギャップ)が明らかとなった。」

No.	回答者	章	節	基本戦略	状態目標	ご意見内容	対応内容
13	角谷委員	全体	—	—	—	必要に応じて付属書の該当部分を参照できるようにした方がよいでしょうか？	ご指摘を踏まえ、第2章第2節の状態目標毎の総合評価の下に、以下のように付属書の参照ページを記載する。 「※付属書〇～〇ページをデータ諸元としている。」
14	角谷委員	2.1	—	—	—	指標の適切性について、選定プロセスがわかるようにもつと丁寧な説明が必要だと思います。また、評価にあたってのA-C指標の使い方についても概略で良いので説明した方がよいのではないのでしょうか？(最低限の情報にするとしても、図2-1-1にある情報は文章ベースでの説明があった方がよいと思います)。	ご指摘を踏まえ、付属書2.1指標の選定手順に具体例として状態目標1-1の森林全体・面積・量と生物種数・多様性の指標選定を追記する。
15	大久保委員	第1章	キーメッセージ①	—	—	キーメッセージ1の本文3段落目「今回指標として用いた…データがあった。」の文意がわかりにくいです。あえてキーメッセージに記載しなくても良いのではと感じます。	ご指摘を踏まえ、より俯瞰的なキーメッセージになるようキーメッセージ1の内容自体を見直した。
16	大久保委員	第1章	キーメッセージ③	基本戦略2 自然を活用した社会課題の解決	—	キーメッセージ3の本文最後「農林水産業や気候変動等…持続可能な利用を位置づけ」の部分が、農林水産業のように自然資本に依存した産業分野での主流化を強調したいのか、気候変動に関わる部分を強調したいのか、主張の内容が伝わってきません。「気候変動等の生態系サービス」という表現もしっくりきません。「農林水産業や観光業のように生態系サービスに大きく依存する産業のみならず、気候変動の影響を受けるあらゆる分野の施策に…」ということでしょうか？	ご指摘を踏まえ、以下のように記載を変更する。 「気候変動対策のみならず、農林水産業や観光業のように生態系サービスに依存するあらゆる分野の取組に、生物多様性の保全と持続可能な利用を組み込み、」
17	大久保委員	第2章	第2節	基本戦略1 生態系の健全性の回復	状態目標1-1 全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	2段落目3行目の「あるああと」→「あること」	ご指摘のとおりに修正する。
18	大久保委員	第2章	第2節	基本戦略3 ネイチャーポジティブ経済の実現	状態目標3-3 持続可能な農林水産業が拡大している	評価上の課題はないとしてありますが、有機農業の拡大だけでは持続可能を評価できないと思っています。CBDの決議文書15/5にあるコンポーネント指標や補完指標も踏まえて、有機農業面積以外の指標の可能性など加筆できないでしょうか。	ご指摘を踏まえ、CBD決議文書15/5よりターゲット10(農林漁業の持続可能な管理)に係る指標(下記参考)を調べたが、既存の指標に比べれば重要性が高いとは言えない(※)と思われ、「明確な評価上の課題はない」とさせていただきます。 ※例えば、使えそうな指標として、コンプリメンタリー指標の中には「レッドリスト指数(花粉媒介種)」がリストされているが、こういった花粉媒介種の生態的状況を直接反映した指標も、持続可能な農業の進展を測る指標として適切とはいえないと判断した。 【参考】ターゲット10(農林漁業の持続可能な管理)に係る指標 ・ヘッドライン指標： 生産的かつ持続可能な農業が行われている農地の割合 ・コンポーネント指標： 小規模食品生産者の平均所得(性別と先住民族の地位ごと) ・補完指標： 農業生物多様性指数 土壌有機炭素蓄積量の変化 レッドリスト指数(家畜の野生近縁種) レッドリスト指数(花粉媒介種) 絶滅の危機に瀕していると分類される在来種の割合
19	久保委員	第1章	キーメッセージ①	—	—	キーメッセージ1が社会経済「状況」となっているが、社会経済「活動」の方が親和性がある気がします。JBO3との関係もあると思いますが、図3との一貫性も重要だと思います。	JBO3では「社会経済状況(間接要因)」としており、ここでの表現は現案のままとする。
20	久保委員	第1章	キーメッセージ③	基本戦略2 自然を活用した社会課題の解決	—	キーメッセージ3の「持続可能な利用」の主語は生態系サービスでしょうか？自然資源でしょうか？	主語は「生物多様性」である。なお、「生物多様性の保全と持続可能な利用」は国家戦略の中でも使用されている表現である。
21	久保委員	第1章	キーメッセージ④	基本戦略4 生活・消費活動における生物多様性の価値の認識と行動(一人一人の行動変容)	—	キーメッセージ4で「関心・意識は低下していた」だけをハイライトしているが、状態目標4.1との整合性の観点から問題ないでしょうか？：総合評価は平行トレンド？	ご指摘を踏まえ、以下のように文章を修正する。 「個人の消費行動における生物多様性への配慮は深まりつつあると考えられるが、生物多様性を重要視する価値観の形成や保全活動への参画についてはあまり進展していないと考えられ、一人一人の認識と行動を変える取組の強化が求められる。」
22	久保委員	第2章	第3節	—	—	課題(評価指標の欠如)の羅列が読みづらく感じたので、全体として目標XXつに対し、(信頼できる)指標があったものはXXつ、などの文言を追加してはどうでしょうか？	No.73の対応に関連して、評価不明の目標・区分は表形式とする。
23	久保委員	序章	第2節	—	—	図2の矢印の意図がわかりませんでした。また図2とキーメッセージにつながりが見えづらく少なからず混乱しました(図2が配置的にOverviewを与えてくれることを期待しました)。	ご指摘を踏まえて図2に矢印の説明(矢印の元が影響を与える要素、矢印の先が影響を与えられる要素という関係を表す。)を追記するとともに、No.33の対応に関連して各要素間の関係性を文章でも追記する。
24	久保委員	-	-	基本戦略4 生活・消費活動における生物多様性の価値の認識と行動(一人一人の行動変容)	状態目標4-2 消費行動において、生物多様性への配慮が行われている	動物等の輸出入の指標は4-2ではB指標にもなりうる気がしました。念の為フローと合わせてご確認頂ければ幸いです。	輸出入する動物等のすべてが生態系に青く影響を及ぼすわけではないため(基本戦略1状態目標1でC指標としたのと同じ理由)、指標要素の一部にあたる指標との判断で、現案のままとする。
25	山北委員	第2章	第2節	基本戦略1 生態系の健全性の回復	状態目標1-1 全体として生態系の規模が増加し、質が向上することで健全性が回復している	p13「藻場生態系については、モニタリングサイト1000における藻場の被度、種組成等の統合的な評価が行えなかったことから、傾向は不明である。干潟・砂浜生態系のうち干潟については、モニタリングサイト1000における干潟の底生生物の確認種数・生息密度の統合的な評価が行えなかったことから、傾向は不明である。」 →評価を試みたがサイトごとに傾向に違いが大きく傾向不明であった認識ですが、この文章だと評価を行っていないようにも見える。 例えば「…の統合的な評価を行うにはばらつきが大きかったことから」のような修正が必要	ご指摘を踏まえ、以下のように文言を修正する。(干潟・砂浜生態系も同様) 「藻場生態系については、モニタリングサイト1000における藻場の被度、種組成等はサイトごとのばらつきも大きく、全国的傾向は不明である。」
26	齊藤委員	序章	2節	—	—	表2、齊藤の所属領域を「生物多様性と生態系サービス領域」に変更してください。	ご指摘のとおりに修正する。

No.	回答者	章	節	基本戦略	状態目標	ご意見内容	対応内容
27	齊藤委員	1章	キーメッセージ①	－	－	p.4の最後のセンテンスが6行にわたって長すぎるので、途中で区切るべきではないかと思います。	ご指摘を踏まえ、より俯瞰的なキーメッセージになるようキーメッセージ1の内容自体を見直した。
28	齊藤委員	1章	キーメッセージ①	－	－	p.4、「直接的に生物多様性を保全しつつ社会経済への生物多様性の主流化も促すような直接要因と間接要因の相互のつながりを意識した統合的な取組を更に推進」が何を意味するのか、やや抽象度が高く具体的な取組みがイメージできません。具体例とセットで提示するのがよいかと思います。	ご指摘を踏まえ、より俯瞰的なキーメッセージになるようキーメッセージ1の内容自体を見直した。
29	齊藤委員	1章	キーメッセージ④	基本戦略4 生活・消費活動における生物多様性の価値の認識と行動(一人一人の行動変容)	－	キーメッセージ本文と解説の両方で「生物多様性に関心・意識のない層により担われている取組の重要性にも留意」とありますが、これがどのような取り組みを意味しているのか、たぶん読者にはわかりにくいと思います。具体例も含めた加筆が必要かと思います。	ご指摘を踏まえ、以下のように文章を変更する。 「生物多様性が主眼に置かれていなくとも、木材や茅などの自然資源を用いた伝統的な建築や工芸、祭事など地域で引き継がれてきた文化や暮らしが、生物多様性保全に貢献している場合があることにも留意する必要がある。」
30	齊藤委員	1章	キーメッセージ④	基本戦略4 生活・消費活動における生物多様性の価値の認識と行動(一人一人の行動変容)	－	「直接的な損失要因を介して影響を与えている、間接的な損失要因」の「間接的な損失要因」の前の「、」は不要ではないでしょうか。	ご指摘のとおりに修正する。
31	齊藤委員	2章	第3節	－	－	「本提言のとおりまとめにより、引き続き維持することが望ましい指標、データの充実や定量化手法の改善を図るべき指標が洗い出され、」のバラグラフの最後には「本提言で明らかになった不足指標、データに関しては、JBO4策定にあたっては優先順位づけをして指標・データの整備を戦略的に進めることが望ましい」といった内容を加筆してはどうでしょうか？JBO4も限られた期間で行うので、今回の不足指標を全て網羅的には対応できないと思うので、より重要になりそうな政策課題・ニーズに即してメリハリをつけた方がよいかと。	ご指摘を踏まえ、この段落の最後に以下を追記する。 「これらはJBO4の策定に向けた課題として残されており、本提言において不足していた指標やデータに関しては、優先順位をつけて戦略的に、指標の開発や調査研究が進められることが望まれる。」
32	吉田座長	表紙	－	－	－	総合評価2028に向けた中間提言、としてはどうか？今のままだと、総合評価2028というタイトルが強調されすぎてしまわないか？	ご指摘のとおり変更する。
33	吉田座長	序章	第3節	－	－	各基本戦略と生物多様性、生態系サービス、直接要因、間接要因との関係性について、もう少し詳しい説明がないと、第1章の内容が理解しにくいのでは？	ご指摘を踏まえ、序章に以下のとおり文章を追記する。 「生物多様性は、食料や水など私たちの暮らしを支える生態系サービスの基盤であり、これらは人間の福利につながっている。一方で、生物多様性の損失は、人間の活動や地球環境の変化などの直接要因により引き起こされており、さらにそれらの直接要因は、人口動態や産業構造などの社会経済状況(間接要因)の影響を受けている。」
34	吉田座長	序章	第3節	－	－	図2はどこからの引用でしょうか？引用元を明記する方がよいと思います。	引用資料はないが、参照資料として以下を記載する。 IPBES(生物多様性及び生態系サービスに関する政府間科学政策プラットフォーム)が自然界と人間社会との間の複雑な相互作用を簡素化して示した概念枠組み、及び生物多様性国家戦略2023-2030
35	吉田座長	第1章	－	－	－	国家戦略では、2030年までに、という言葉違いです。2030年ミッション「ネイチャーポジティブの実現」に向けた提言、としてはどうでしょうか。	「2030年ネイチャーポジティブ」は国家戦略に掲げられている目標の表現であるため、現案のままです。なお、この表現の使い方については序章第1節の中で言及している。
36	吉田座長	第1章	キーメッセージ①	－	－	直接要因への言及は？	座長打合せでは言及しない方向としていたが、改めてご指摘を踏まえ、より俯瞰的なキーメッセージになるようキーメッセージ1の内容自体を見直し、その文章の中で以下のとおり直接要因による影響についても可能な範囲で言及した。
37	吉田座長	第1章	キーメッセージ①	－	－	回復するのではなく、回復軌道に乗る、ではないでしょうか。	ご指摘を踏まえ、「回復に転じる」に表現を変更する。
38	吉田座長	第1章	キーメッセージ①	－	－	「今後は直接的に生物多様性を保全しつつ社会経済への生物多様性の主流化も促すような統合的な取組等の更なる推進が求められる。」について、表現の工夫必要	座長打合せ結果より俯瞰的なキーメッセージになるようキーメッセージ1の内容自体を見直したことを踏まえ、以下のように記載を変更する。 「直接的に生物多様性を保全しつつ社会経済への生物多様性の主流化も促すような統合的な取組等の更なる推進が求められる。」 ↓ 「生物多様性の保全と持続可能な利用が一層進められ、それらが社会経済活動の中に組み込まれるよう、引き続き多角的な取組を実施・加速化し、生物多様性の損失の直接要因と間接要因の双方に働きかけていくことが望まれる」
39	吉田座長	第1章	キーメッセージ①	－	－	信頼性が低い評価結果についての表現方法は工夫が必要。明らかとなったは、強すぎる表現。「可能性が示されて」「～と考えられる」くらいの表現が適切では。	座長打合せ結果を踏まえ、信頼性が高い場合と低い場合の表現を以下のとおりとする。 信頼性高い:「～である、～が明らかである。」 信頼性低い:「～と考えられる。」
40	吉田座長	第1章	キーメッセージ①	－	－	「2030年ネイチャーポジティブの実現に向けては未だ不十分であることが明らかとなった。」について、この根拠はどこに？取り組みが進んでいるがその効果としての回復が見られるには至っていないということでは？	ご指摘を踏まえ、以下のように記載を変更する。 「生物多様性の状態(状態目標1-1、同1-2)は、生態系区分等によって差があるものの、全体として損失傾向が続いていると考えられ、生態系サービスの状態(同2-1)についても回復するまでには至っていないと考えられる。ただし、前向きな兆しも一部あり、事業活動による影響の低減(状態目標3-2)や持続可能な農林水産業の拡大(同3-3)、消費行動における配慮(同4-2)など、生物多様性の損失の背景にある社会経済状況に関しては改善が図られつつあると考えられる。」

No.	回答者	章	節	基本戦略	状態目標	ご意見内容	対応内容
41	吉田座長	第1章	キーメッセージ①	－	－	「生物多様性や生態系サービスの多くは、その損失要因への対処による効果が発現するまでに一定程度の時間を要することが考えられる。」について、取り組みが足りないのか、時間遅れなのかは、判別できていないのでは？	ご指摘を踏まえ、以下のように記載を変更する。 「それらは間接的に生物多様性の状態に作用するものであり効果が発現するまでに一定程度の時間を要することや、本中間提言においては明示的に評価を行っていないが直接要因による影響を受けている可能性が考えられる。」
42	吉田座長	第1章	キーメッセージ①	－	－	「同一の制度に基づきながらも異なる評価項目に位置づけられたデータがあった。」の「データ」は「指標」か？	より俯瞰的なキーメッセージになるようキーメッセージ1の内容自体を見直した。
43	吉田座長	第1章	キーメッセージ②	基本戦略1 生態系の健全性の回復	－	「全体としては損失傾向にある。」について、信頼性の表現は？	No.39の指摘対応に合わせて文末の表現を変更する。
44	吉田座長	第1章	キーメッセージ②	基本戦略1 生態系の健全性の回復	－	「今後は継続的なモニタリングを行いつつ、多様な主体による生物多様性の増進活動の更なる推進が求められる。」について、何のモニタリング？モニタリングの継続、の表現の方がいいのでは？	ご指摘を踏まえ、以下のように記載を変更する。 「今回、十分な評価ができなかった生態系区分もあることを踏まえ、全国レベルでのモニタリングを継続しデータを蓄積するとともに」
45	吉田座長	第1章	キーメッセージ②	基本戦略1 生態系の健全性の回復	－	「森林生態系、農地生態系の一部などで回復傾向にある一方、農地生態系の二次草原・草地及び里地里山、サンゴ礁生態系などでは損失傾向にあることが明らかとなった。」について、信頼性の表現は？	No.39の指摘対応に合わせて文末の表現を変更する。
46	吉田座長	第1章	キーメッセージ②	基本戦略1 生態系の健全性の回復	－	「生物多様性が回復するまでは至っておらず全体としては損失傾向にあることが明らかとなった。」について、表現の工夫必要	No.39の指摘対応に合わせて文末の表現を変更する。
47	吉田座長	第1章	キーメッセージ②	基本戦略1 生態系の健全性の回復	－	「特に人工林や農地、創出緑地等、人為的な介入を伴う場合、人間による利用や維持管理等が直接的な要因として大きく関わることに留意が必要である。」について、表現の工夫必要	座長打合せ結果を踏まえ、以下のように記載を変更する。 「生態系の質に関して、特に人工林や農地、創出緑地等においては、人間による利用や維持管理の状況が直接的に影響を及ぼすことに留意が必要である。」
48	吉田座長	第1章	キーメッセージ②	基本戦略1 生態系の健全性の回復	－	「十分な評価ができていない項目も多く、継続的なモニタリングに基づき対策を実施することが望ましい。」について、「継続」だけで十分か？	ご指摘を踏まえ、以下のように記載を変更する。 「今回、十分な評価ができなかった生態系区分もあることを踏まえ、全国レベルでのモニタリングを継続しデータを蓄積するとともに、全国又は生態系区分の単位で信頼性の高い評価が実施できるような統合的な指標の開発が望まれる。」
49	吉田座長	第1章	キーメッセージ③	基本戦略2 自然を活用した社会課題の解決	－	「今後もあらゆる分野の施策に生物多様性の保全と持続可能な利用を位置づけ生態系サービスを持続的に享受していくことが求められる。」について、表現の工夫必要	座長打合せ結果を踏まえ、以下のように記載を変更する。(ディスサービスについても追記した) 「私たちが享受している自然の恵み、生態系サービスは維持傾向であると考えられる一方、自然からの負の影響(ディスサービス)は好転していないと考えられる。今後もあらゆる分野の取組に生物多様性の保全と持続可能な利用を組み込み、生態系サービスの持続的な享受を実現することが求められる。」
50	吉田座長	第1章	キーメッセージ③	基本戦略2 自然を活用した社会課題の解決	－	「本提言において2020年以降の短期トレンド評価を行った結果、食料や原材料等の供給サービスや私たちの文化・生活習慣に係る文化的サービスは劣化が継続しており、食料生産や大気・水質の浄化、防災減災にも係る調整サービスも大きな進展はみられなかった。」について、どのような進展か？	ご指摘を踏まえ、以下のように記載を変更する。 「食料や原材料等の供給サービスや気候の調整や防災減災などの調整サービスは維持傾向であると考えられる一方、文化・生活習慣に係る文化的サービスは劣化傾向が継続していると考えられ、全体としては維持傾向と考えられる。」
51	吉田座長	第1章	キーメッセージ③	基本戦略2 自然を活用した社会課題の解決	－	「要素間の相乗性(シナジー)のある対応策を束ねて、または続けて実施することで、要素全体に対する効果を高められるとしている。」について、表現の工夫必要	ご指摘を踏まえ、以下のように記載を変更する。 「生物多様性、水、食料、人の健康、気候変動は互いに関連し、またそれぞれ危機の増大に直面しているとした上で、解決策として、それら複数の危機に同時に対応することでコベネフィット(相乗便益)が生じるような相互的アプローチを提示している。」
52	吉田座長	第1章	キーメッセージ④	－	－	「消費活動における生物多様性への配慮やネイチャーボジティブ経済への移行は一部進みつつも」について、「一部の取組が進みつつ」ではないか	状態目標を評価しているため、元の表現のままとする。
53	吉田座長	第1章	キーメッセージ④	基本戦略4 生活・消費活動における生物多様性の価値	－	「国民全体の関心・意識は低下している。」について、何に対する関心・意識？	「生物多様性を重要視する価値観」に修正する。
54	吉田座長	第1章	キーメッセージ④	基本戦略4 生活・消費活動における生物多様性の価値の認識と行動(一人一人の行動変容)	－	「生物多様性に関心・意識のない層により担われている取組」について、表現の工夫必要	ご指摘を踏まえ、以下のように文章を変更する。 「生物多様性が主眼に置かれていなくとも、木材や茅などの自然資源を用いた伝統的な建築や工芸、祭事など地域で引き継がれてきた文化や暮らしが、生物多様性保全に貢献している場合があることに留意する必要がある。」
55	吉田座長	第1章	キーメッセージ④	基本戦略4 生活・消費活動における生物多様性の価値の認識と行動(一人一人の行動変容)	－	「国民の理解から行動変容につなげる」は伝わりにくい表現	ご指摘を踏まえ、以下のように記載を変更する。 「ネイチャーボジティブを実現するためには、一人一人が生物多様性の重要性を認識し、日々の暮らしの中で生物多様性に配慮した又は保全に資する行動をすることが重要であり、そのような行動変容につなげる取組の強化が求められる。」
56	吉田座長	第1章	キーメッセージ④	基本戦略3 ネイチャーボジティブ経済の実現	－	「特に負の影響の低減や持続可能な農林水産業の取組は進展していることが明らかとなった一方で」について、負の影響とは何の影響？	ご指摘を踏まえ、以下のように記載を変更する。 「特に負の影響の低減や」 ↓ 「事業活動による生物多様性への影響は低減傾向にあり」
57	吉田座長	第1章	キーメッセージ④	基本戦略4 生活・消費活動における生物多様性の価値の認識と行動(一人一人の行動変容)	－	「伝統知や地域知等のように、生物多様性保全を目的とするものではないものの、」について、表現の工夫必要	ご指摘を踏まえ、以下のように文章を変更する。 「生物多様性が主眼に置かれていなくとも、木材や茅などの自然資源を用いた伝統的な建築や工芸、祭事など地域で引き継がれてきた文化や暮らしが、生物多様性保全に貢献している場合があることに留意する必要がある。」

No.	回答者	章	節	基本戦略	状態目標	ご意見内容	対応内容
58	吉田座長	第1章	キーメッセージ⑤	基本戦略5 生物多様性に係る取組を支える基盤整備と国際連携の推進	－	「生物多様性に係る取組を支える基盤整備と途上国支援の取組は進展している。」について、信頼性は？	No.39の指摘対応に合わせて文末の表現を変更する。
59	吉田座長	第1章	キーメッセージ⑤	基本戦略5 生物多様性に係る取組を支える基盤整備と国際連携の推進	－	「取組全体を更に底上げする」はわかりにくい表現	ご指摘を踏まえ、この表現は削除する。
60	吉田座長	第1章	キーメッセージ⑤	基本戦略5 生物多様性に係る取組を支える基盤整備と国際連携の推進	－	「生物多様性の保全に係る資金を継続的な確保が求められる。」は継続ではなく拡大では？	ご指摘を踏まえ、以下のように記載を変更する。 「必要な資金や支援の充足に向けた取組が望まれる。」
61	吉田座長	第1章	キーメッセージ⑤	基本戦略5 生物多様性に係る取組を支える基盤整備と国際連携の推進	－	「民間資金の導入状況は総合的な把握が難しい状況にある。」はわかりにくい表現	ご指摘を踏まえ、以下のように記載を変更する。 「生物多様性の保全に係る資金ギャップの改善については、公的資金の供与は増加傾向にある一方、民間資金の投入状況を総合的に把握することは現時点では難しかった。」
62	吉田座長	第2章	第1節	－	－	図4の「指標の適切性を判断し、評価に用いる指標を選定」が最初のステップでは？	ステップとしてはこの通りの為、現案のままとする。
63	吉田座長	第2章	第1節	－	－	図4の「指標区分ごとに評価を実施」の区分は小区分と大区分？	大区分と小区分ごとの評価であるため、括弧書きで追記する。
64	吉田座長	第2章	第1節	－	－	図4の「指標区分」→「指標群」	ここでは指標区分(大区分、小区分、細区分)を設定することを意図しているため、現案のままとする。
65	吉田座長	第2章	第1節	－	－	図4の「指標」→「指標を評価するためのデータ」 「指標の主な情報源」→「指標を評価するためのデータの主な情報源」	ご指摘を踏まえ、以下のとおり記載を変更する。 「指標データ」→「指標となりえるデータ」 「指標の主な情報源」→「主な情報源」
66	吉田座長	第2章	第1節	－	－	「信頼度」は信頼性に統一してはどうか？	ご指摘のとおり「信頼性」に統一する。
67	吉田座長	第2章	第3節(課題)	－	－	タイトル中の「本提言」を「本中間提言」に	ご指摘のとおりに修正する。(他の箇所もすべて修正)
68	吉田座長	第2章	第3節(課題)	－	－	課題だけでなく、それに対する対応(すぐ実施できることと、すぐには実施できないが理想も含めて)についても言及すべきでは？	対応は次のパラグラフの「JBO4策定に向けて」に含めている。
69	吉田座長	第2章	第3節(課題)	－	－	1段落目1行目の「データ」は「各種の指標を評価するためのデータ」	No.70の対応にともない、特段修正はなしとした。
70	吉田座長	第2章	第3節(課題)	－	－	1段落目「入手可能性の観点から限られた情報で評価を実施している」はわかりにくい表現	ご指摘を踏まえ、以下のように記載を変更する。 「現時点で入手可能なデータに基づいて評価を実施した結果、」
71	吉田座長	第2章	第3節(課題)	－	－	1段落目「目標やその要素に適合する指標がない、あるいは指標の傾向判断が難しいものなど、必要とする指標データと実際に利用できるデータに乖離が生じ、」はわかりにくい表現	ご指摘を踏まえ、以下のように記載を変更する。 「目標やその要素に適合する指標がない、あるいは指標の傾向判断が難しいものなど、必要とする指標データと実際に利用できるデータの乖離(データギャップ)が明らかとなった。」
72	吉田座長	第2章	第3節(課題)	－	－	1段落目「専門家による判断(エキスパート・ジャッジ)による評価」について、すべて指標に基づいて評価しているの、適切な指標がないものが評価不明では？委員のエキスパートジャッジしたところは正確にはどこか？あるなら、評価方法の説明に加筆すべきでは？	No.8と同様
73	吉田座長	第2章	第3節(課題)	－	－	1段落目「具体的に」以降は、文章ではなく表にした方が見やすい	ご指摘を踏まえ、表形式で整理する
74	吉田座長	第2章	第3節(課題)	－	－	2段落目「生態系によっては外的な変化要因によって影響を受けている場合もある。例えば、海域については2011年3月の東日本大震災、2017年8月からの黒潮大蛇行などが影響している。」はわかりにくい	ご指摘を踏まえ、書き出しを以下のように変更する。 「生態系の状態を測る指標データによっては…」
75	吉田座長	第2章	第3節(課題)	－	－	2段落目「生態系サービスについては、消費側の行動変容が引き起こされた新型コロナウイルス感染症の拡大などが考えられる。」はわかりにくい	ご指摘を踏まえ、書き出しを以下のように変更する。 「生態系サービスの状態を測る指標データについても、消費者の行動変容が引き起こされた新型コロナウイルス感染症の拡大などの突発的な影響を受けている場合がある。」
76	吉田座長	第2章	第3節(課題)	－	－	2段落目「自然事象による外部からの変化要因」はわかりにくい。外部とは？	ご指摘を踏まえ、以下のように記載を変更する。 「人為的行為に起因しない自然現象等の外的な要因の影響を受けて状態が変化する場合があることに留意が必要である。」
77	吉田座長	第2章	第3節(課題)	－	－	2段落目「それらも加味した状態であることに留意が必要である。」について、何の状態？	ご指摘を踏まえ、以下のように記載を変更する。 「また、長期的に見れば劣化傾向が進んだ末に維持傾向が続いているものについて、短期トレンドとしては後退の傾向ではなく大きな進展なしと評価していることにも留意が必要である。」
78	吉田座長	第2章	第3節(課題)	－	－	2段落目「本提言は全国状況を総合的に評価するものであるが」の全国は日本全体？	ご指摘を踏まえ、「日本全体」に修正する
79	吉田座長	第2章	第3節(課題)	－	－	2段落目「特に生態系に係る指標のうち複数種や多地点の調査結果を平均してトレンド評価」はわかりにくい	ご指摘を踏まえ、以下のように記載を変更する。 「特に各生態系に係る指標のうち複数種や多地点のデータを平均化している指標については」
80	吉田座長	第2章	第3節(課題)	－	－	2段落目「減少や増加の傾向が見えづらいこと」はわかりにくい	ご指摘を踏まえ、以下のように記載を変更する。 「個別の増減傾向があったとしても全体の傾向としては現れにくい。」

No.	回答者	章	節	基本戦略	状態目標	ご意見内容	対応内容
81	吉田座長	第2章	第3節(課題)	－	－	2段落目「減少後に回復していない状態が続いている地点等が過少評価になるなどの懸念点がある。」について、どう いう理由で？	ご指摘を踏まえ、以下のように記載を変更する。 「また、長期的に見れば劣化傾向が進んだ末に維持傾向が続いているものについて、短期トレンドとしては後退の傾向ではなく大きな進展なしと評価していることにも留意が必要である。」
82	吉田座長	第2章	第3節(JBO4に向けて)	－	－	二つ目のタイトル「JBO4策定に向けて」は「今後のJBO4策定に向けて」としてはどうか？	ご指摘のとおりに修正する。
83	吉田座長	第2章	第3節(JBO4に向けて)	－	－	1段落目1行目「JBO4」は「2028年に公表を予定しているJBO4」とする	ご指摘のとおりに修正する。
84	吉田座長	第2章	第3節(JBO4に向けて)	－	－	1段落目1行目「本提言」は「本中間提言」とする	ご指摘のとおりに修正する。
85	吉田座長	第2章	第3節(JBO4に向けて)	－	－	1段落目1行目「同様の国家戦略の状態目標の短期トレンド評価」はわかりにくい	No.87と同様
86	吉田座長	第2章	第3節(JBO4に向けて)	－	－	1段落目2行目「長期トレンド評価」は長期という意味では、JBO3までと同様であることも説明してはどうか？	No.87と同様
87	吉田座長	第2章	第3節(JBO4に向けて)	－	－	これらの短期トレンド評価と長期トレンド評価の位置付け、特に、回復軌道に乗せるという2030年目標達成との関連についても、もう少し記述があった方がいいのでは？	ご指摘を踏まえ、以下のように記載を変更する。 「2028年に公表を予定しているJBO4では、国家戦略の各状態目標の達成状況に関する2020年を基準年とした短期トレンド評価(本中間提言と同様)とともに、生物多様性や生態系サービスの状態、並びにそれらに影響を及ぼす直接要因及び間接要因に関する50年程度前からの長期トレンド評価(JBO3までと同様)を実施し、これらを総合して2030年ネイチャーボジティブの実現状況を含め、2050年までの自然と共生する社会の実現に向けた課題と展望等についてとりまとめる予定である。」
88	吉田座長	第2章	第3節(JBO4に向けて)	－	－	2段落目は上の課題の最後に移動して、課題への対応の一部としてはどうか？	座長打合せ結果を踏まえ、「本中間提言時点での評価における課題」には課題のみ、それへの対応は「今後のJBO4策定に向けて」に含める構成のままとしつつ、各状態目標に係る個別の課題と対応は第2章第2節に記載していることに言及する。
89	吉田座長	第2章	第3節(JBO4に向けて)	－	－	2段落目「引き続き維持することが望ましい指標」は、維持するのは指標ではなく、取組みや状態では？	ここではあくまで指標について文章であるが、ご指摘を踏まえ、以下のように記載を変更する。 「引き続き調査等が実施され今後もデータが使用可能となることが望ましい指標」
90	吉田座長	第2章	第3節(JBO4に向けて)	－	－	2段落目2行目「それに必要な事項、研究や科学的知見等の貢献や知見が不足する点」はわかりにくい	ご指摘を踏まえ、以下のように記載を変更する。 「統合的な指標の開発など学術研究の貢献が必要な点も明らかとなった。」
91	吉田座長	第2章	第3節(JBO4に向けて)	－	－	2段落目3～5行目は長いので2文に分割	ご指摘のとおりに修正する。
92	吉田座長	第2章	第3節(JBO4に向けて)	－	－	3段落目1行目「JBO4では次期国家戦略検討の根拠となる科学的知見の整理も目的に据え」は、提供が期待されることから、では？	次期国家戦略の根拠となる点についてはNo95の対応にともない、結語として記載する。
93	吉田座長	第2章	第3節(JBO4に向けて)	－	－	3段落目2行目「将来シナリオによる予測等」は表現の工夫必要	ご指摘を踏まえ、以下のように記載を変更する。 「JBO4で自然と共生する社会の実現に向けた課題や展望等を示す上で、特に、シナリオ分析を用いた生物多様性・自然資本の将来予測研究の進展が待たれる。
94	吉田座長	第2章	第3節(JBO4に向けて)	－	－	3段落目3行目以降「JBO3においては、直接要因－間接要因－介入点の関係性を統合的に捉え、定量的・実証的に調査研究を推進することで、より効果的な政策立案につなげ、社会変革に向けて具体的な施策をとる」はわかりにくい	ご指摘を踏まえ、当該部分は削除する。(JBO3には触れずにJBO4に必要な事項のみ触れることとする)
95	吉田座長	第2章	第3節(JBO4に向けて)	－	－	3段落目最後の結語としては、JBOと国家戦略との関係について、序章での説明をよりかみくだいで説明したのち、JBOの重要な役割を果たすことへの決意としてはどうか？	ご指摘を踏まえ、以下のように記載を変更する。 「JBOで得られた知見は、これまでも生物多様性国家戦略の策定の際に活用され、大きな役割を果たしてきた。2028年に策定するJBO4では、本中間提言で明らかとなった先述の諸課題に対応し、より精緻な総合評価を行い、次期の生物多様性国家戦略の検討に必要な科学的根拠を提示することを目指す。」
96	大橋委員	第1章	キーメッセージ①	－	－	キーメッセージ①この報告書のなかでの最重要項目だと考えていますが、文章の混乱が著しいように見えます。JBO3との関係や、自然共生サイトの話題など、このキーメッセージに長文で入れ込むことが本当に適切なのか、検討が必要である。	ご指摘を踏まえ、より俯瞰的なキーメッセージになるようキーメッセージ1の内容自体を見直した。
97	大橋委員	第1章	キーメッセージ②	基本戦略1 生態系の健全性の回復	－	キーメッセージ②4行目、森林生態系、農地生態系の一部などで回復傾向・・・とありますが、質の指標を伴わない評価であることを踏まえると、これらの生態系において、現状が楽観的なものであると誤解を招きかねない表現ではないかと思えます。もうすこし丁寧に、「森林生態系の二次林、農地生態系の畑・果樹園・牧草地は、面的な指標では回復傾向にあった。」など、評価できている範囲を明示するような表現にしたほうがよいと思います。	第1回検討会での指摘を踏まえた対応として、細区分「面積・量」のA指標は、増加した場合に良いとされる自然的な生態系(二次林はこれにあたる)の場合や、質も考慮できている場合(畑・果樹園・牧草地では「有機JASは場面積」)を含んでいる。 一方、No.39への対応と関連して、信頼性が低い場合は「～と考えられる」との表現に変更した。
98	大橋委員	第1章	キーメッセージ②	基本戦略1 生態系の健全性の回復	－	キーメッセージ②10行目、「その増減に係る相互関係」はわかりにくいので、もう少し具体的に書いた方がよいと思います。(管理放棄に伴う林地化のことでしょうか？)	ご指摘を踏まえ、以下のように記載を変更する。 「生態系の規模に関して、森林生態系のうち二次林の区分では増加傾向にあった一方、農地生態系のうち二次草原・草地の区分では減少傾向にあった。ある生態系の規模の増加が別の生態系での減少につながっている可能性もあるため、生態系区分間の相互関係にも留意が必要である。」

No.	回答者	章	節	基本戦略	状態目標	ご意見内容	対応内容
99	大橋委員	第2章	第2節	基本戦略2 自然を活用した社会課題の解決	状態目標2-2 気候変動対策による生態系影響が抑えられるとともに、気候変動対策と生物多様性・生態系サービスのシナジー構築・トレードオフ緩和が行われている	IPBESS-IPCCになっていますが、IPBES-IPCCですね。	ご指摘のとおりに修正する。
100	大橋委員	第2章	第2節	基本戦略2 自然を活用した社会課題の解決	状態目標2-3 野生鳥獣との適切な距離が保たれ、鳥獣被害が緩和している	・大区分『野生生物による直接的な被害(鳥獣管理)の軽減』は、表現が抽象的であるうえに、「鳥獣管理」が文脈に適切に組み込まれておらず、日本語として違和感があります。大区分は「野生生物による被害防止を目的とした個体数の管理」、小区分は「個体数管理」とするなど、もう少し的確な表現はできないものでしょうか。(鳥獣管理、ということ、被害防除や生息地管理などもう少し広義の管理も含まれてしまいますので、混乱を招きます)	ご指摘を踏まえ、以下のように区分名を変更する。(付属書も合わせて変更) 「野生生物による直接的な被害の軽減」
101	大橋委員	第2章	第2節	基本戦略2 自然を活用した社会課題の解決	状態目標2-3 野生鳥獣との適切な距離が保たれ、鳥獣被害が緩和している	・(以前コメントしたような気もするのですが)この指標、シカの「半減目標」は達成できておらず、目標達成までの期間を5年延長していることを踏まえると、「目標達成に向けて順調」という評価は楽観的すぎる評価であり、「進展したがその程度は不十分」が妥当だと考えます。おそらく関心をもっている人が多く、様々な方面から指摘を受けやすい指標だと思しますので、慎重な評価を行ったほうがよいと思います。	総合評価はフロー及び凡例に従ったものであるため、ご指摘を踏まえた対応として、以下のとおりとする。 ・第2章第2節状態目標2-3の根拠に以下を追記する。 「なお、ニホンジカ及びイノシシの個体数については、令和5年度までに平成23年度比で半減させる捕獲目標を設定していたが達成には至らず、令和10年度までの半減を目指している。」 ・イノシシの推定個体数のグラフを追加する。
102	大橋委員	第2章	第2節	基本戦略2 自然を活用した社会課題の解決	状態目標2-3 野生鳥獣との適切な距離が保たれ、鳥獣被害が緩和している	・データギャップのところにコメントが全くありませんが、現在シカやイノシシを対象に使われているハーベストベースドモデルを用いた個体数推定法は、不適切なモデル構造によって推定に誤りが生じる可能性が指摘されている手法であり(Fukasawa et al. 2020 DOI: 10.2981/wlb.00708)、今後信頼性の高い現地調査データを時間的・空間的に十分量集積していくことにより、より正確で安定的な個体数推定が必要であることについて、言及していく必要があります(Ando et al. 2023 DOI:10.3106/ms2021-0049)。また、ツキノワグマ・ヒグマなど、そもそも個体数管理に必要な情報すらない獣種も少なくないため、これらについてもデータの収集・蓄積が必要です。さらに、各種被害についても、定量的なデータを時間的・空間的に積み重ねていく必要があることについて言及が必要です。	ご指摘を踏まえ、状態目標2-3の評価上の課題(データギャップ等)に以下を追記する。 「ニホンジカやイノシシを対象に使われているハーベストベースドモデルを用いた個体数推定法は、そのモデル構造によって推定に誤りが生じる可能性が指摘されている。今後は、信頼性の高い現地調査データを時間的・空間的に集積していくことにより、より正確で安定的な個体数推定法の確立が必要である」 ※根拠となる論文も脚注で追加 「野生鳥獣との適切な距離の確保については、ツキノワグマやヒグマなど、そもそも個体数管理に必要な情報がない種も少なくないため、これらについてもデータの収集・蓄積が必要である。」 「鳥獣被害については、引き続き定量的なデータを時間的・空間的に集積していくことが必要である。」
103	大橋委員	第2章	第2節	基本戦略2 自然を活用した社会課題の解決	状態目標2-3 野生鳥獣との適切な距離が保たれ、鳥獣被害が緩和している	・ところでアライグマやキョンなど、外来種による被害は、どの項目で評価することになるのでしょうか？シカが森林生態系の評価とこちらで2回登場していることを踏まえると、こちらにもアライグマやキョンなどの分布拡大と被害について言及されてもよさそうですが。	外来種については大区分「陸域生態系」で特定外来生物の種類数や分布として扱っていることで対応している。
104	大橋委員	第2章	第2節	基本戦略2 自然を活用した社会課題の解決	状態目標2-3 野生鳥獣との適切な距離が保たれ、鳥獣被害が緩和している	・C指標の狩猟者数を報告している鳥獣関係統計は令和2年度以降(少なくともインターネット上では)公表されていませんが、定期的に公表する必要性について言及する必要はないのでしょうか？	ご指摘の指標については、行動目標に近い指標であるためC指標としている。(継続的なデータ集積の必要性に関しては第2章第3節で言及している。)
105	大橋委員	第2章	第3節	－	－	評価に用いる指標がない状態目標・区分についてののみ言及されているが、評価がされているものについても、必ずしも信頼性が高いものばかりではないことも言及する必要がある(信頼性の口がほぼほぼ点線で構成されている)。	信頼性の低い要因としては、指標群の量・質だけでなく、指標トレンドの一致性も考慮されることから、ここでは明示的に言及しないこととする。なお、指標群の量・質の充実については各状態目標毎の評価上の課題にて言及する。
106	大橋委員	付属書	－	－	－	B:ニホンジカによる森林生態系への影響度の変化など、B指標にされた理由が(森林生態系基礎調査そのものは継続しているにもかかわらず)継続性(将来)がないため、と判断されているものが散見されるが、その判断は疑問である。調査が継続されており、同じ手法で算出すれば計測可能な指標は、継続性(将来)があるといっていいいのではないか？	継続性(将来)については、「今後継続的かつ速やかに」と記載しており、同じ調査手法で継続される見込みがない、あるいは不明のものを中心に×としている。 ご指摘を踏まえ、指標の選定フローの「継続性(将来)」の説明に以下のように追記する。 「同一の手法で調査が継続され、間隔が長期間空かずにデータが公表される」